

ARTIST CLIP

No.47



美術家
上出 恵悟
Keigo Kamide



『静物』
(磁器、MDF、白亜地／8.9×高さ4.5cm、7×高さ7.8cm、
支持体(木板):43×30.8×高さ1.8cm)

Information -

上出恵悟 展

●2021年3月3日(水)
→22日(月)
日本橋店本館6階 美術画廊X

▽ 高島屋の美術
▽ ART INFORMATION



かみで・けいご 1981年
石川県生まれ。九谷焼窯元、
上出長右衛門窯の六代目。
2006年東京藝術大学美術
学部絵画科油画専攻卒業。
長右衛門窯をプロデュース
する一方、作家個人として
の作品も発表。個展をベー
スに定期的に活動している。

伝統工芸の 「強度」をあげる

生

まれた時から九谷焼は身近な存在で、
物心ついた頃には『大きくなったら
お茶碗屋さんになりたい』と言っていました」
上出長右衛門窯六代目・上出恵悟さんは
そう語る。県立工業高校でデザインを学ん
だあと、東京藝術大学油画専攻に進学。

大学では絵を描くことよりも、学外で
アーティストの手伝いやトークイベントに
携わり、「アートと社会とのつながり」につ
いて考えた。

「だんだんと美術館や博物館にある日本美
術の『物としての強度』の凄まじさに惹か
れるようになりました。歴史の中でずっと
残ってきたものについて考えを巡らせてい
た時に、あらためて『実家も伝統工芸の仕
事じゃないか』と、気づいたんです」

大学卒業後は長右衛門窯の一員として、
PRや販売の会社を設立した。スペイン人

の世界的なデザイナー、ハイメ・アジヨン
氏と窯のコラボレーションや、伝統的な図
柄である「笛吹」の人物にギターやラジカ
セを持たせ、現代的な器としてリリースす
るなど新しい挑戦をした。こうした器は若
い世代に人気のアパレルブランドやセレク
トショップなどでも扱われるようになり、
新たなファンの獲得につながっている。

「磁器の歴史はまだ400年です。初めて
白く美しい肌の磁器を見た時に、当時の人
が感じた新鮮さ、その驚きを呼び戻すのに、
アートの見方や考え方が役に立ちました。
古典的な図柄を現代的にアレンジして伝え
ているのも、そうした発想です」

窯の仕事とは別に、作家として森美術館
や金沢21世紀近代美術館などの展示に参加、
評価を確実なものにしてきた。

「今回の『STILL LIFE(意味：静物)』展は
長右衛門窯の商品がただ並んでいるように
見えると思いますが、実は全て中が詰まっ
た磁器の塊で、中に物を入れることはできま
せん。けれど器として使えないわけでもない。
お茶碗屋さんになりたいという夢が叶った
今とまだその思いを巡らせている自分。そ
の両者がお互いを見つめ合ったところに僕
の作品があると思っています、今回はその象
徴のような作品になったと思います」

「日本の美意識や文化を更新していきたい」

3年生で大学を一年休学し、九谷焼
の現状を調べた。「長右衛門窯のよ
うな、伝統的な職人の手仕事が失
われつつあり、後継者も減っている
と知り、何とかしたいと思いました」